平成24年９月19日(水)

「わかる授業」の設計を考える

―「指導案の書き方」入門―　(改訂３版)

倉橋　忠

１　どんな授業を目指すか

このレポートは、知識・技能は習得すべき学力であり、活用する学力が思考力・判断力・表現力であると仮定して（前提にして）授業設計を考えるものである。

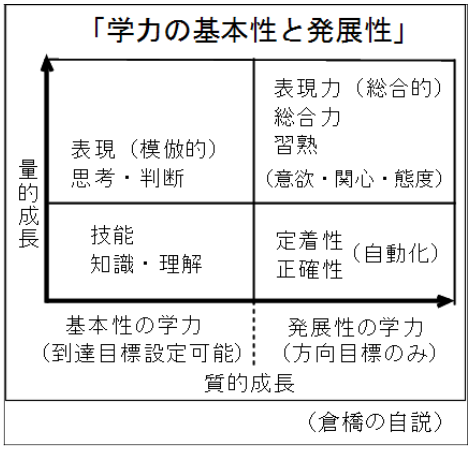
※　「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」(学校教育法第30条第2項)。

①　学力構造をどのように理解するか

また、生徒指導要録に示されている観点を学力の要素と仮定すると、それらの要素をどのように整理して理解･実践すればいいのであろうか。

学説的には、これらの要素を並列的に捉える立場もあるが、段階的に捉える立場が有力であり、段階的に捉える立場にも様々な考え方がある。

すなわち、授業のゴール(目標)をＡ「知識・理解」に据える立場、Ｂ「意欲・関心・態度」に据える立場、Ｃ「思考・判断・表現」に据える立場に大別することができる。



さらに、学力は「量的」に把握できる部分と、「質的」に把握すべき部分があるとも言われる。この点についても、「学説」は多岐にわたっている。

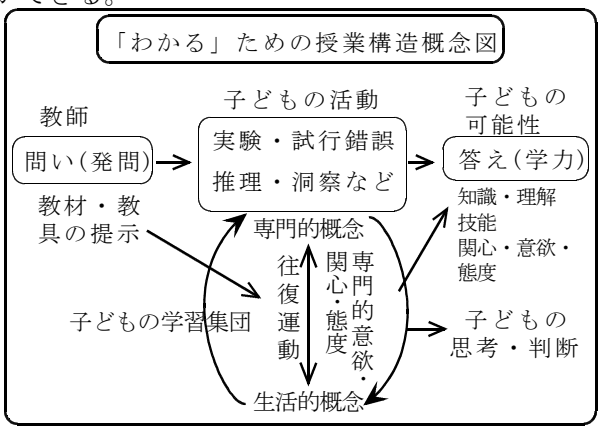
これらの状況から、授業者が具体的に仮定(決断)して実践する必要がある。

②　深い理解・探求心・洞察力を鍛える授業を設計しよう

生活的概念と専門的概念(科学的概念)との往復運動の中から、子どもたちは、はじめて専門的概念(科学的概念)を獲得することができる。

そして、「思考の往復運動は、子どもと学習対象との間のそれを中心に、社会事象を追究する方法(視点)間の間のそれと、子ども同士の間のそれの三者から成り立つ」。

子どもの思考力を育てるために、子どもたちの集団も、この往復運動には欠かせない「場」である(右図はその概念図　…　倉橋のオリジナル図)。



2　目標設定

① **単元や本時の教育目標(到達目標)を明確にすること。**

… 何を学ばせたいのか、どのような学力を育てたいのか、具体的に明確にすること(これがすべての始まり。目標(目的)と教材(手段)を混同しないことが大切である)。

(例)　中学校英語科の場合

［単元目標］　◎　if節、that節、when節、because節を用いた文の形・意味・用法を正しく使うことができ、それらを利用して自分の考えが表現できる。

◎　あるトピックスに対して、賛成か反対かなど自分の考えや意見を理由も含めて英語(英会話)で発表できる。

［育てたい学力(到達目標)］　自分の考えや意見を述べるには、筋道を立てて構成することが大切である。そのような場合、最初に結論を述べ、その後に具体例を挙げながら理由を述べるのが英語的である。その際に、if節、that節、when節、because節などを使って、自分の考えを表現できる学力を育てる(総括的評価の評価基準)。

② **単元全体の指導計画** … 可能な限り、１時間１時間の「展開」まで計画すること。

③ **教材観**は、学習目標に到達するために、**教材の性質・本質のどの部分を使用(注目)するのかを記述する。**教材は、目標到達のための手段であることを忘れないこと。

(例)　中学校社会科(歴史的分野)の場合

［教材］「五人組帳前書き」　：　村の「掟」が明文化されており、切支丹禁制他、幕府の諸法度が「村の掟」として効力を有していたことを知ることができる。また、最後の連署・押印を見るだけで「五人組」の姿が想像できる地域教材である。

④ **児童観・生徒観**は、本時の学習に対する学力状態(準備状況)を記述する。主たる内容は、**本時の学習内容に至るための既習学習の内容・定着度**である。あるいは、**子どもたちのもつ生活体験上の予備的知識**である。学級の雰囲気や授業態度等は、副次的な要素である。

(例)　中学校社会科(歴史的分野)の場合

[生徒観]：都市部にある本校の校区には農地はほとんどなく、生徒たちは現在の農業方法も知らないし、鍬や鋤の使用方法はおろか、田と畑の違いすらわからない。江戸時代の言葉も、農作業も知らない生徒たちにとって、「慶安御触書」や「五人組帳」は非常に難解であるため、直接的に教材として扱うのは困難であろう。しかしながら、疑問を持つことから始まり、真実に迫る学習の「楽しさ」や「驚き」を体験させるために、翻訳された教材を使用せず、生徒たちの生活体験を通して、可能な限り「ほんもの」に対面させたい。

3　授業展開の設計　　※論理的な展開がいいとは限らない(おいしいものを先に食べることもある)

① **授業展開計画の中で、評価方法・手段と評価場面が設定**されなければならない。

② 単元目標を設定したら、次に**単元の総括的評価問題を作成**する。その具体的な模範解答が総括的評価の評価基準となる。この作業が「**指導と評価の一体化**」の第一歩である。

③ **評価の目的**は、教師が授業を振り返り反省する際の資料とすることと、子どもの学習課題を明確にし、学ぶ課程を支援することにある。→　具体性(再現可能性)が求められる。

④ **目標は、行動目標化する。**特に、授業の中で行う形成的評価の対象は行動目標にすること。

(例)「九九が分かる」ではなく、「２の段のかけ算を誤りなく暗唱できる」のようにする。
行動目標は、そのまま「評価基準」として利用可能である。

⑤　**形成的評価は、１時間当たり、多くても３つまで**にする。

⑥　目標に到達しているかどうかを確認する**「評価問題」・評価手段を準備**する。**つけたい学力の性質によって評価方法・手段は変わる**。すなわち、評価法はプリントによる評価問題だけではない。口頭試問による確認法、クイズ形式の発問、虫食いの板書の完成、間違い探し、演技による発表、討論観察、さらには、イメージ・マップ法やパフォーマンス評価法もある。

⑦　**１時間を３分割**して考え(子どもの集中力は10～15分が限界)、分割毎に学習意欲を呼び起こす手だてを工夫する(「導入、展開、まとめ」のことではない)。したがって、**学習意欲を「ゆさぶる・くすぐる」教材・教具・説話等を、最低でも２つ以上準備する必要がある**。

⑧　**第３分割の場面で、形成的評価**を行い、本時の学習の理解度・定着度を確かめる(評価問題・課題が必要になる)。理解度が低い子どもへの**回復指導方法を準備**しておく。

⑨　**観点別目標・評価は、１単元１つでもいい**。あるいは、１時間当たり１つでもいい。複数の観点や、複合する観点は必要ない(実際上の指導に役立たないか、実践できない)。

⑩　**行動目標化した評価基準の表記例**

規準の表記	**評価基準**の妥当な表記の例(行動目標化した表記の例)
(知識・理解)	※　各教科の基礎的な知識(文化遺産)の認知的獲得を学力内容とする。
・知る ・理解する ・理解できる	「○○の再認を正確にできる」「○○の模倣ができる」 「○○を正確に再現できる」「正確に○○を暗唱できる」「○○の説明ができる」「○○の要件を列挙できる」「○○の特徴を指摘できる」「学んだ○○を自分の言葉で説明できる」「○○を使って動作できる」など。
・気づく	「○○と△△の違いを指摘できる」「○○と△△の違いを説明できる」 「○○の変化を、自分の言葉で説明できる」「知らなかったことを、発見した○○を使って指摘できる」 「はじめて知った○○のことを、△△を使って説明できる」など。
(技能)	※　各教科の基礎的な技能や表現力(模倣による程度)を学力内容とする。
・技能をつける	「○○の計算が正しくできる」「○○を使って正確に作業できる」 「○○拍子のリズムでたたける」「○○が△△基準どおりに動作できる」 「○○の資料から△△(値など)を読み取り説明(指摘)できる」 「△△の資料をもとに○○の表を作成できる」
(思考･判断･表現)	※　複数の事柄・事象等の関係・関連性を説明・洞察できる学力である。
・わかる ・活用できる ・考えることができる ・思考する ・思考できる ・判断できる	「これまで知らなかった○○のことを、別の△△で説明できる」 「学んだ○○を利用して、△△を説明できる」「○○を利用してオリジナルな文が書ける」「学習した○○の具体的な応用方法を説明できる」「学習した○○の具体的な応用場面を説明できる」「学習した○○を自分の体験と関連づけて説明できる」「学習した○○を使って、△△(技能)ができる」 価値的な事柄が対立している場面で、「学習した○○(考え方・方法)を利用して、学習内容△△に即して、正しく選択することができる」など。
・表現できる	「△△の資料を使って、○○の変化を説明(表現)する図を描くことができる」 「○○を模倣して、自分の主張ができる」など。

規準の表記	**評価基準**の妥当な表記の例(行動目標化した表記の例)
(関心・意欲・態度)	※1　学力内容は、対立する価値概念や規範概念を教科の特質にそって獲得する能力が育ち、学んだそれら使って、自分なりに表現することができることを主たる内容とする。 ※2　高次の発展・習熟段階の学力である。この学力状態の一定段階までは到達目標(基準)を示すことができる。しかし、最高段階の学力状態では、方向目標しか示すことができない(学者・研究者のレベルがそれである)。
・興味を持つ ・関心がある ・関心を持たせる	「○○の具体的な応用場面を探そうとする」「具体的な場面(生活場面)で学習した○○(知識・技能)をあてはめて、説明しようとする」「具体的な場面(生活場面)で学習した○○を利用しようとする」「学習した○○(知識・技能)から、新しい△△(知識・技能)を作りだそうとする」など。
・意欲を引き出す ・意欲がある ・意欲的に取り組む ・努力する ・努力できる	「学習した○○(知識や技能)をわかりやすく整理できる」「学習した○○(知識や技能)を使って、新たな課題をすすんで調べようとする」 「学習した○○(知識や技能)の方法を利用して、発表しようとする(発表しようとする行動傾向自体は個人の性格によることが多く、学力とは言い難い)」 「実際の日常生活の事象を、学んだ○○で説明しようとする」「日本語で表現できることを、すすんで学んだ英語の○○で表現しようとする」「学習した○○の具体的な応用方法を発案したり、試そうとする」など。
・真面目(熱心)に取り組む ・授業態度がよい ・態度を育てる ・態度をとる	価値選択(態度決定)・価値判断が迫られる場面で、 「学習した○○(概念)を活用して、選択理由(態度決定の根拠)を導く」「選択する方法に、学習した○○(技能)を利用し、筋道を立てて説明(表現)できる」「決断理由を、学習した○○(概念)を根拠にして説明できる」など。 (例)「あなたが自動車を買うとすれば、次の条件のどれを優先しますか。すべての条件を優先順に並べて、並べた理由を説明しなさい。 スタイル。車体の色。燃費のよさ。排気ガスのクリーン度。スピード性能のよさ。ブレーキ性能のよさ。丈夫さ。運転のしやすさ。価格。」

4　教材提示など教師の支援活動の準備

①　**目標到達を確実に支援できる教材・教具・発問を考え用意する**こと。楽しい教材は、往々にして焦点ぼけを起こす原因になるので要注意。目標(目的)と教材(手段)の役割を逆転して考えないこと。教材(手段)を先に決めると、目標(目的)からずれることが多い。

②　**発問には、予め模範解答をイメージしておく**こと(**これが評価基準**になる)。
数種類の発問を「シナリオ化」しておくことが、指導案を引き締めるポイントになる。
なお、模範解答は、完全な文として記述することが重要である。

(例)　×「南北戦争の原因がわかる」
○「南北戦争は、州の権利と論点、南北の根本的な経済的・文化的発展差異、奴隷制についての分断された意見などの複数の要因によって勃発した。」
×「速く泳ぐ方法がわかる」

○「速く泳ぐためには、引っ張って、押す水の量を最大にするため、手のひらを平にすることが大切である。」

③　**発問**には、次のような**種類**が考えられる。

(A) 問いと解答の間に距離がない発問(深い理解や思考力は育たない)：子どもの経験で解答できるもの。覚えていれば簡単に解答できるもの。解答が単純・簡単なので力の弱い子どもでも参加しやすいが、成長を促すことは困難な発問である。ただ、授業展開のリズム感を作り、授業をテンポよく進める効果がある。

(B) 問いと解答の間に距離がある発問(深い理解や洞察力・思考力を育てる)：算数などの計算問題のように、計算すれば解答がでるような発問は技能を育てる。

子どもたちの常識やそれまでの学習内容と矛盾する説明や発問は、「なんでやねん？」と、考えなければ解答が導き出せない。そのような発問は、洞察力・思考力や探求心を育てる。

また、「その国の特徴は、どうなっているのかな？」「自分の思いを色で使って表現するには、どうしたらいいか？」「自然や社会の中にある、ともなって変わる２つの数量の関係はどのように捉えられるのか？」等と調べなくてはならない発問は、探求心や資料活用技能等を育てる。

(C) 解答が、単純・一つではない発問(深い理解、探求心、論理力等を育てる)：学問の論争点や日常生活上の解決されていない問題に対する態度を問う発問。複数の単元をまたがっているような発問等は深い理解や探求心、整理力を育成する。

［要注意］　**「～について調べてみよう」「～について考えてみよう」のタイプの発問や指示で、探求心を育てることは困難**である。→ 論点が漠然としていることが多い(焦点化しにくい)。皮肉にも、～の部分を具体的に指示すれば、単純な解答を求める結果になることが多い。

④　**板書計画**をしっかりすること(特に**構造化**を意識すること)。

⑤　**説明・指示等も**、可能な限り、セリフ(文言)まで**シナリオ化**すること。

⑥　**説明・指示等も具体的に行動化する**こと。

例　「怪我をしないよう気をつけなさい」→「器具に顔を近づけないこと。怪我をするかも知れないよ。」などのように。

５　指導案(展開部分)の形式

授業者にとって授業展開イメージが具体的に明確になるものであれば、どのような形式でもかまわない。ただし、**上記の１２３の要件を満たしていることが前提**である。以下は例。

①　子どもの学習活動を優先して記述する形式

	子どもの学習活動 (学習形態含む)	教師の支援活動 (教材・教具・発問・説明など)	評　　価 (評価方法・評価場面)
導入		動機付け	
展開			
確認	評価問題に取り組む	つまずきがあれば回復指導	形成的評価(評価問題)

② 教育目標を優先して記述する形式

	教育目標 (評価方法・評価場面)	教師の支援活動 (教材・教具・発問・説明など)	子どもの学習活動 (学習形態含む)
導入		動機付け	
展開			
確認	形成的評価(評価問題)	つまずきがあれば回復指導	評価問題に取り組む

③ キー・ポイントになる概念・動作を明確にする形式

	教育目標 (評価方法・評価場面)	教師の支援活動 (教材・教具・発問・説明)	キー・ワード (キー概念・動作)	子どもの学習活動 (学習形態含む)
導入		動機付け		
展開				
確認	形成的評価(評価問題)	つまずきがあれば回復指導		評価問題に取り組む

6 様々な評価技法

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">パフォーマンスにもとづく評価
(performance-based assessment)</td></tr>
<tr><td colspan="2">パフォーマンス課題による評価</td><td>観察や対話による評価</td></tr>
<tr><td colspan="2">筆記による評価
(筆記試験、ワークシートなど)</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>「客観テスト」式</td><td>自由記述式</td><td>完成作品の評価</td><td>実演の評価
(実技試験)</td><td>プロセスに焦点をあてる評価</td></tr>
<tr><td rowspan="2">☐ 多肢選択問題
☐ 正誤問題
☐ 順序問題
☐ 組み合わせ問題
☐ 穴埋め問題
・単語
・句</td><td>☐ 短答問題
・文章
・段落
・図表　など

<u>作問の工夫</u>
☐ 知識を与えて推論させる方法
☐ 作問法
☐ 認知的葛藤法
☐ 予測－観察－説明(POE)法
☐ 概念マップ法
☐ ペン図法
☐ KJ法
☐ 運勢ライン法
☐ 描画法</td><td>☐ エッセイ、小論文
☐ 研究レポート、研究論文
☐ 物語、脚本、詩
☐ 絵、図表
☐ 芸術作品
☐ 実験レポート
☐ 数学原理のモデル
☐ ソフトウェアのデザイン
☐ ビデオ、録音テープ</td><td>☐ 朗読
☐ 口頭発表
☐ ディベート
☐ 演技
☐ ダンス、動作
☐ 素材の使い方
☐ 音楽演奏
☐ 実験器具の操作
☐ 運動スキルの実演
☐ コンピュータの操作
☐ 実習授業
☐ チームワーク</td><td>☐ 活動の観察
☐ 発問
☐ 討論
☐ 検討会
☐ 面接
☐ 口頭試問
☐ ノート・日誌・日記

Cf.カルテ、座席表</td></tr>
<tr><td colspan="3">☐ プロジェクト</td></tr>
<tr><td colspan="5">☐ ポートフォリオ評価法</td></tr>
</table>

西岡加名恵「教育評価の方法」田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法 [Ⅰ]』
日本標準 2002年10月15日 p.37 より引用

7　指導案サンプル　－「指導過程のみ」－

単元　中学校社会科歴史的分野「江戸時代の農民の生活」

① 指導計画（全３時間）

第１時 … 年貢と農民の食生活（米は残ったのか）

第２時 … 農民の増産の努力と農業の発達（下戻から下戻＋干鰯へ）

第３時 … 農村における貧富の差の拡大（貧農を直撃した年貢と貨幣経済）

② 学習指導過程（全３時間）

観点	教育目標・到達目標（評価基準）	教材（発問・指示を含む）	概念的知識（キー・ワード）	生徒の学習活動
（第１時）動機付け 資料活用技能 思考・判断 次時への準備	◎到達目標 （~~江戸幕府の農民政策と農民の生活の関連を理解する~~） 江戸幕府の農民政策と当時の生産性の低さが、農民の生活を苦しめたことを年貢の重さから説明できる。 ◎郷土の史料から、年貢の重さを推測できる（村人１人当たりの米の１日量1.02合を算出できる）。 ◎麦・稗・粟を食べなければ生きていけなかった農民の生活の原因（生産性の低さと年貢の重さ）をあげることができる。 open-end。	◎当時の農民が食べた雑炊（事前に炊く）。 Q雑炊の中身を「慶安御触書」から探して見よう。 ◎ほぼ原文のままの全文を配布。 ◎参考として『徳川實記』の原文を配布。 ◎稗・粟の実物 ◎万多羅寺村の地図 ◎「万多羅寺村年貢皆済目録」 1698（元禄11）年 ◎「万多羅寺村差出し帳」 1701(元禄14)年 ◎「万多羅寺村明細帳」 1745(延享2)年 Q村の耕地が全部、水田だったのか。畑で米は取れたのか。 Q村高ではなく、水田で取れた米の総量はいくらか。 ◎１合升と１合の米 Q「宿題」です。粗食しか食べなかった農民のウンチはどんなものだったのだろうか。 ヒント：お尻を何でふいたんでしょうか？	雑炊 「慶安御触書」 (1649年) 麦・稗・粟・菜 (校区の隣の村) 天領 村請け 年貢・銀納 五公五民	◎到達目標を知る。 ◎当時の農民が食べた雑炊を食べてみる。 ◎雑炊を食べた感想を話し合う。 ◎「慶安御触書」から雑炊の中身を探す。 ◎大根・粟・稗を発見する。 ◎米を作っていた農民がなぜ、米を食べられなかったのかが疑問となる。全部を年貢に取られたのだろうか。 ◎「年貢皆済目録」から本年貢負担率を計算する。 ↓ ◎村高は畑の収穫量まで米で見積もられたものであることに気づく。 ↓ ◎村人１人１日当たり、1.02合の米しか食べられなかったことに気づく。 ◎麦・稗・粟などの雑炊しか食べられなかった農民の生活と幕府の支配との関係を考える。 ◎粗食しか食べなかった農民のウンチを考えてみる。
（第２時）知識・理解	到達目標 （江戸時代の農民の増産の努力と農業の発達を説明できる） ◎江戸時代に農業生産が伸びた原因として、新田開発と稲の品種改良や農具の発達及び施肥方法の普及があったことを説明できる。	前時の復習 Q年貢は、米以外に銀でも納めなければならなかった。 米を少しでも多く食べようとすれば、農民はどうしなければならなかったのだろうか。 ◎教科書（日書）p.132がヒント。 Q次の万多羅寺村明細帳から、農民の努力を探そう。稲の品種や作物がヒントだよ。 ◎「延享2年万多羅寺村明細帳」 (1745年) Q綿花のように売ることを目的に栽培する作物のことをなんと言いましたか？ Q綿花が育つには、肥えた土地とたくさんの養分を必要とした。肥料が必要になったんだ	新田開発 農具の改良 稲の品種改良 木綿・たばこ 綿花栽培 商品作物	◎米を食べるために、米を多く作る方法と、米以外に売れる農作物の（商品作物）栽培を考える。　↓ 銀納によって商品作物を作る必要性があったことに気づく。 ◎綿花栽培の調べ、条件を話し合う。

思考・判断 次時への準備	◎商品作物の栽培が金肥を必要とし、貨幣経済が農村に深く浸透するようになったことを説明できる。 open-end。	ね。どんなものが肥料になったんだろう？ ◎「慶安御触書」の「せっちん」に関するところに注目させる。 Qここで質問。宿題の農民のウンチはどんなものものだったのでしょうか？ ◎「寛延2年下坂部村明細帳」の下屎に関する所に注目させる。「下屎を尼崎城下大坂城下まで取りに行っていたんだ。なんで？」 ◎「元禄14年万多羅寺村差出し帳」 Q「商品作物の栽培と金肥の使用は農村に何をもたらしたのか考えてみよう。」 ◎宿題「元禄時代の第５代将軍綱吉は、江戸の城下町に野犬8万2000匹を飼っていた。1匹の犬に1日何合の米を食べさせていたのだろうか」調べておこう。	干鰯 金肥 下屎(しもごえ) (下坂部は校区) 金肥 貨幣経済の浸透	◎「農民のウンチ」について話し合う。 ↓ ◎兎の糞に似たコロコロとしたものだったことを知る。 ↓ ◎農民の「ウンチ」は低い肥料価値しかなかったことを知る。 ↓ ◎「うんち」を買うために農民たちが努力と苦労をしたことを知る。 ◎貨幣経済の農村への深い浸透に気づく。 ↓ ◎貧富の差の拡大がおこることを知る。
（第３時） 資料活用技能 思考・判断 関心	到達目標 （幕府の農民支配と農村の変化の関係~~を考える~~）。 について、年貢の重さと貨幣経済の浸透を使って説明できる。 ◎年貢確保のために幕府のとった政策を説明できる。 ◎幕府の農民支配の原理に朱子学が働いていたことを説明できる。 ◎五人組制度のねらいを説明できる。 ◎村請けと機械的平等で負担した年貢の重さを説明できる。 ◎年貢と貨幣経済の浸透によって、貧富の差が拡大されたこと~~に気づく。~~を下人の出現したことを指摘して説明できる。 open-endである。	前時までの復習 ◎「慶安御触書」 Q1.02合しか米を食べられなかった農民が簡単に年貢を納めたのだろうか。 Q幕府が農民を支配するための手段として利用した思想を「触書」の中から探そう。 ◎触書の「名主組頭をハ真の親とおもふへき事」「親に能々孝行之心 … 」に注目させる。 ◎触書の「年貢さへ済すまし … 」の所に注目。本当か考える。 ◎「元禄11年万多羅寺村五人組御仕置帳」 (「前書き」は寺子屋の手本に利用された) Q機械的平等負担であった年貢負担。機械的平等負担が貧農に与えた影響は何か。 ◎「宗旨人別帳」(略) (『尼崎の歴史』 p.38を使用) ◎畦に植えられた大豆の写真(触書の名残) Q現代に、この江戸時代から残されていると考えられるものはないでしょうか？	朱子学 「孝」 五人組 村役人・名主・庄屋・組頭 連帯責任 年貢の機械的平等負担 貧富の差の拡大 下人	◎「慶安御触書」を農民が読めたのか、考えてみる。 ↓ ◎文字を読めたもの（武士・村役人）が口頭で伝えたことに気づく。 ◎「触れ」の意味を知る。 ◎綱吉は、8万2000匹の野犬に１日１匹３合の米を与えたことを思い出す。 ◎気楽な生活と雑炊の差に疑問を感じる。 ↓ ◎朱子学の「孝」を強調する倫理に気づく。 ↓ ◎親への孝→名主・組頭への孝の仕組みの倫理が精神的に支配者への無批判な服従を強制したことを知る。 ◎機械的な平等による年貢負担が貧農に与えた影響を考える。 ◎下人にならなければならなかった人たちはどんな人たちであったかを考える。 ↓ ◎貧富の差の拡大に気づく。 ◎現代生活の中に残っている江戸時代を考える。

下線部は、加筆修正部分。　　1993年11月、兵庫県中学校社会科教育研究大会にて公開した授業指導案を加筆修正した。

８　参考文献

田中耕治「教育評価論からみた新指導要録の特徴と課題」『教育目標・評価学会紀要』 第21号 2011年11月

齋藤孝『教育力』岩波書店　2007年1月

吉田新一郎『効果10倍の＜教える＞技術』PHP研究所　2006年3月

北原琢也『評価活動の取組方法　── 評価・評定の実践と課題 ── 』京都市立衣笠中学校 2005年11月

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程』有斐閣2005年4月

田中耕治『学力と評価の″今″を読みとく』日本標準　2004年8月

堀哲夫『一枚ポートフォリオ評価 理科 ― 子どもと先生がつくる「学びのあしあと」』日本標準　2004年4月

ジェニ・ウィルソン、レスリー・ウィング・ジャン(吉田新一郎 訳)『「考える力」はこうしてつける』新評論 2004年4月

西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法　－あらたな評価基準の創出に向けて－』図書文化 2003年6月

田中耕治編著『教育評価の未来を拓く』ミネルヴァ書房　2003年10月

田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法』［Ⅰ］［Ⅱ］日本標準　2002年10月

田中耕治『指導要録の改定と学力問題　－学力評価論の直面する課題－』三学出版　2002年9月

田中耕治『学力評価入門』法政出版　1996年6月

倉橋忠「中学校社会科歴史的分野「江戸時代の農民の生活」における「関心・意欲・態度」の評価に関する実践的考察」『教育目標・評価学会紀要』第5号 1995年5月

石田恒好・木下康彦編集『中学校社会　こうすればできる観点別評価の手順』図書文化 1994年7月

北尾倫彦・祇園全禄編集『中学校社会 観点別学習状況の評価基準表』図書文化1994年5月

倉橋忠「中学校社会科公民的分野「現代家族」と教材の実践的考察　－関心・意欲・態度の評価に関する試論－」兵庫教育大学教育方法講座『授業の探求』第5号1994年3月

北俊夫編著『社会科「関心・意欲・態度」の評価技法』明治図書　1993年12月

亀井浩明･佐野金吾･高橋秀美編『中学校 観点別評価の実際』社会編 教育出版1993年10月

文部省『小学校社会指導資料　新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造』平成5年9月

中内敏夫『新版　教材と教具の理論－教育原論Ⅱ－』あゆみ出版 1990年2月

片上宗二『社会科授業の改革と展望　－「中間項の理論」を提唱する』明治図書 1985年

佐伯胖『わかり方の根源』小学館 1984年12月

稲葉宏雄・大西匡哉・水川隆夫編著『基礎からの到達度評価 ・わかる授業とたしかな学力を求めて』あゆみ出版 1984年7月

篠原昭雄編『社会科地理的分野の達成度評価』明治図書　1983年4月

柿沼利昭編『社会科公民的分野の達成度評価』明治図書　1983年4月

B.B.レイヒ、M.S.ジョンソン(宮原英種 監訳)『教室で生きる教育心理学』新曜社 1983年2月

吉本均『ドラマとしての授業の成立』明治図書 1982年6月

中内敏夫『増補　学力と評価の理論』第４版　国土社　1976年3月

その他。